第462号
2016年5月15日
（毎月15日発行）
１部20円（組合員の購読料は組合費に含む）

JR貨物労組

日本貨物鉄道労働組合
〒114-0013
東京都北区東田端１－16
ＪＲ貨物田端信号場駅5F
☎NTT 03-3819-7071
ＪＲ 054-2901～3
発行人　相澤武志
編集人　藤田尚輝

第32回定期全国大会の成功に向けて！

日　　時：2016年6月26日（日）13時30分～27日（月）12時
場　　所：（静岡県）熱海後楽園ホテル

第３２回定期全国大会に向けて、今総括月間で職場からのこの一年の闘いの総括を行い、目前に控える闘争課題と組織課題を明確にし、ＪＲ貨物労組の更なる飛躍をかけてへ結集しよう!!

全国大会の課題

1. 目前に迫る参議院議員選挙を勝利し、暴走する安倍政権に断を下し、「ねじれ国会」をつくりだす実践を確認する。
1. 「平和・人権・民主主義」を守り、ＪＲ発足30年・国鉄改革の検証と次世代への提言を明らかにし、鉄道事業部門の黒字化を通過点に、組合員の雇用と生活を守る闘う方針を確立する。
1. 日常的な職場活動を基礎に、次世代への組織体制確立のために組合員の結集をはかる。

「平成28年熊本地震」発生！

一口500円のカンパの取り組み要請！

「平成28年熊本地震」が発生し、組合員と家族、労連の仲間の直接的な人的被害はありませんでしたが、家屋などに被害が出ています。今も余震が続く中で必死に生活している仲間のために、組合員へ一口500円のカンパを要請します！

組合員の声「熊本地震を体験して」

秋山　紘治（熊本分会）

4月14日21時26分頃に熊本県熊本地方を震源とするマグニチュード6・5の地震が発生しました。揺れ始めた時はゆっくりだったので、何が起こったか分かりませんでしたが、だんだん揺れの激しさが増してきたときには、危険を感じ家の窓から飛び出して逃げようとするぐらい恐怖を感じました。また、4月16日の本地震が発生した時は、津波警報が発生し、私の自宅が海から距離が近かったため、車に乗って離れようとしました。車は渋滞してなかなか前に進まず、ふと隣の車を見たら助手席に乗った女性が涙を流して泣いていたのが印象に残っています。

今回の地震を体験して、恐怖も感じましたが人の温かさも感じました。たくさんの人から心配をしていただいた声もあり、救援物資も送っていただきました。この御恩は一生忘れることができません。現在も余震が続いております。夜もゆっくり寝ることができないくらいです。一刻も早く熊本が復興できるように願っております。

進　弘輝（佐賀地区分会）

私は14日発車待ちで地震を経験し、16日はサイド乗務で列車に乗り込みました。肥後伊倉駅を通過した際激しい揺れを確認した後、変圧器表示灯・VCB表示灯が点灯し直ちに非常ブレーキを使用。パン降下停車後、指令に連絡しました。指令に連絡後バッテリー降下、業務用携帯電話の入りの指示をもらいました。その時は、前日も地震があり極度の恐怖から普段足も震えた事が無いのに震えたのを今まで覚えています。

また停車中に外のお爺さんから、遮断機が下りたまま踏切が渡れないと言われ、状況を説明し納得をしてもらいました。パン降下し山の中にいるので、春とはいえ寒さと戦いながら余震が落ち着くのを待っていました。夜が明けると余震が落ち着いたので、自区への連絡により車両点検を行い、幸い脱線しておらず、荷物が無事な事に安堵しました。すると夜中に来たお爺さんが来られて、お茶とジュースの差し入れを頂きました。地震で、極度の緊張感にいた中、人の優しさに触れ最後まで仕事を無事に終えようと思いました。今回震災にあたって、職場の同僚と家族に怪我なく無事にいたことが、不幸中の幸いであったと思います。

最後に全国の仲間の方々からの激励ありがとうございます！まだまだ平常通りとはいえませんが、みんなで力を合わせて頑張っていきたいと思います。

2016年 夏季手当要求!!
「我々の努力の結果の還元を求めて、全職場から闘いをつくろう!!」
基準内賃金×　**2.6ヵ月＋5万円!!**　を要求する!!
要求提出日：5月19日　　回答指定日：6月17日

マイ・ターミナル

「技術者の帽子」と「経営者の帽子」

1986年に起きたスペースシャトル・チャレンジャー号の爆発事故をご存じだろうか。ケネディ宇宙センターから発射されたチャレンジャー号は73秒後に爆発し、7名の乗務員が死亡した。その画像はテレビ報道で伝えられ、世界中に衝撃を与えたが、NASAは失敗するリスクが大きかったにも関わらず打ち上げを強行した事も知っておかなければならない。

NASAの技術者は車体に不備を発見していたから、打ち上げ失敗を予期していたのである。もちろん、技術者たちは打ち上げ中止を求めたが、NASA上層部は聞き入れずに強行し、悲劇を起こしたのである。では、なぜ打ち上げを強行したのだろうか。

実はこのチャレンジャー号には高校教師が乗り込んでいた。スペースシャトルに民間人の宇宙飛行士が乗るのは初めてであり、その意味でこの打ち上げは世界から注目されていたことから、上層部は是が非でも決行したかったのである。「安全」より「メンツ」を優先したともいえるだろう。打ち上げ中止を求めた技術者に対して、上層部は「技術者の帽子を取って経営者の帽子を被りなさい」と言い放ったと伝えられている。

ＪＲ貨物は「鉄道事業部門の黒字化」を必達目標としている。それは組合員の将来を考えた上でも必要なことである。

しかし、経営者の「メンツ」のための黒字化として、コスト削減と数字合わせが強行されるのであれば大きな事故を招きかねない。私たちは「技術者の帽子」を被る者として安全と技術継承を置き去りにした手法には警鐘を鳴らし続けなければならない。（F）